

# 本薬師寺中門跡発掘調査現地説明会資料

1993年3月27日  
奈良国立文化財研究所 飛鳥藤原宮跡発掘調査部

本中真

## 1. はじめに

本薬師寺の主要伽藍が想定される藤原京右京八条三坊では、図-1に示すとおり現在までに計5回の発掘調査が行われている。このうち第1次から第4次までの各調査は、いずれも道路や住宅の建設に伴う事前調査であった。寺域西南隅部における第1次調査では条坊の施工と寺造営工事との前後関係にかかわる知見の一端を得たほか、金堂北面雨落溝を検出した。第4次調査では、主要伽藍域における遺構の残存状況は比較的良好であることを確認した。これに対して昨年度実施した第5次調査は、寺域や伽藍規模の解明を目的とする学術調査を今後本格的に実施して行くうえでの予備的調査であった。小規模な調査区ではあったが、金堂の壇正積基壇外装と南面中央の階段の痕跡などを検出し、多くの成果を得ることができた。今年度は学術調査の2回目として、伽藍中軸線を明らかにするべく中門跡の調査に着手した。調査面積は450㎡、調査は1993年2月25日に開始し、現在進行中である。

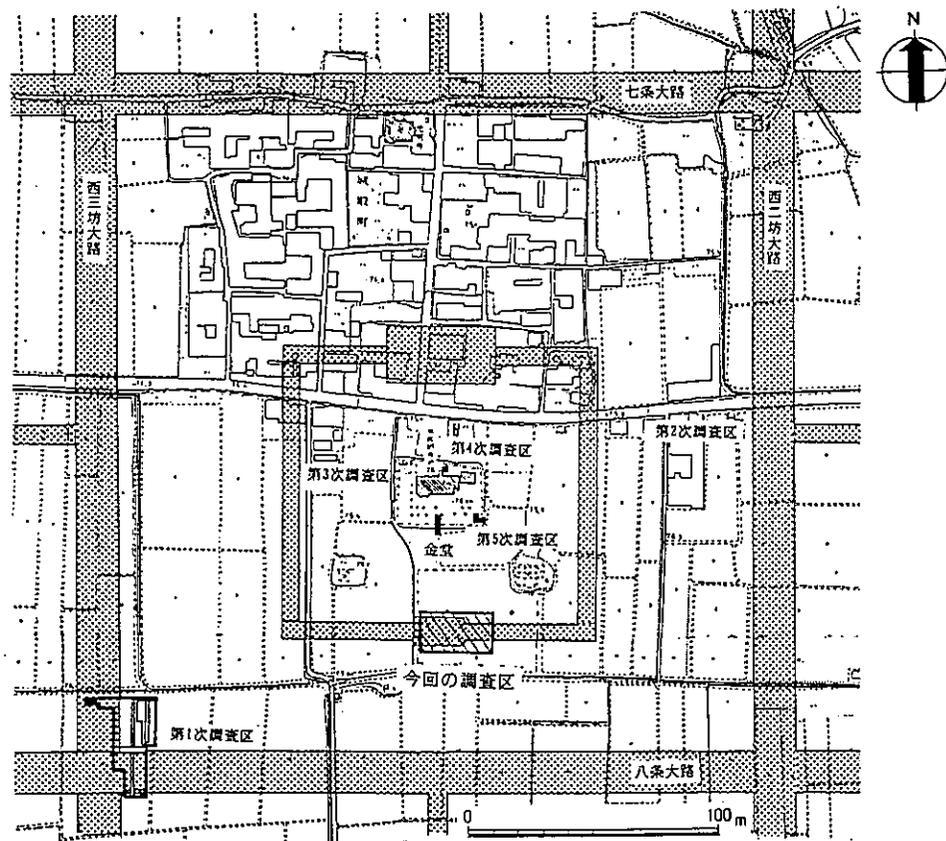


図-1 本薬師寺の伽藍配置と周辺条坊および発掘調査位置図

## 2. 本薬師寺の概略

本薬師寺の草創および平城薬師寺の沿革に関する事項は、下の年表のとおりである。

西暦	年号	事項
676	天武5	新城に都つくらんとするも果さず
680	天武9	天皇、皇后の病平癒を祈って薬師寺の建立を発願
682	天武11	三野王らを新城に遣わし、地形を見しむ、新城に幸す (天皇、皇后のために薬師寺を造る)
683	天武12	天皇、京師を巡行す
684	天武13	天皇、京師を巡行し、宮室の地を定む
686	朱鳥元	天武天皇崩御
688	持統2	大官・飛鳥・川原・小墾田豊浦・坂田の五寺で無遮大会を設ける
688	持統2	薬師寺で無遮大会を行う
690	持統4	高市皇子、藤原宮地をみる
691	持統5	天皇、公卿百寮を従え藤原宮地をみる
691	持統5	新益京を鎮祭す
692	持統6	新益京の宅地を班給
692	持統6	天皇、新益京の路をみる (持統天皇、先帝のために講堂本尊阿弥陀繡仏を造る)
693	持統7	藤原宮地を鎮祭す
693	持統7	造司衣縫王らに招して、掘り出した屍を收容せしむ
694	持統8	天皇、藤原宮地に幸す
694	持統8	藤原宮に遷都
697	持統11	公卿百寮、天皇の病平癒のために仏像を発願、薬師寺にて開眼供養
698	文武2	薬師寺の構作ほぼ終わり、衆僧を住せしむ (講堂阿弥陀繡仏開眼の賞として道昭を大僧部に任す)
701	大宝元	波多朝臣牟胡間と許曾陪朝臣陽麻呂を造薬師寺司に任す
701	大宝元	造大安・薬師二寺官を寮に准じる
702	大宝2	太上天皇(持統)崩御、四大寺に齋を設く
703	大宝3	先帝のため大安・薬師・元興・弘福の四寺に齋を設く
707	慶雲4	文武天皇崩御、初七日より七七忌まで四大寺に齋を設く
710	和銅3	平城京に遷都
718	養老2	薬師寺を平城京右京六条二坊に移す
924	延長2	薬師寺僧宗綏「希に本寺に下向す」
1015	長和4	『薬師寺縁起』を撰す
1025	万寿2	源経頼、本薬師寺に宿す
1095	嘉保2	本薬師寺の塔跡から舍利を掘り出す
1096	永長元	前関白藤原師実、薬師寺に参詣し本薬師寺より発掘の舍利を拝す
1098	承德2	藤原宗忠、本薬師寺より発掘の舍利を見る
1106	嘉承元	本薬師寺発掘の舍利を小塔婆に納む

表-1 本薬師寺年表

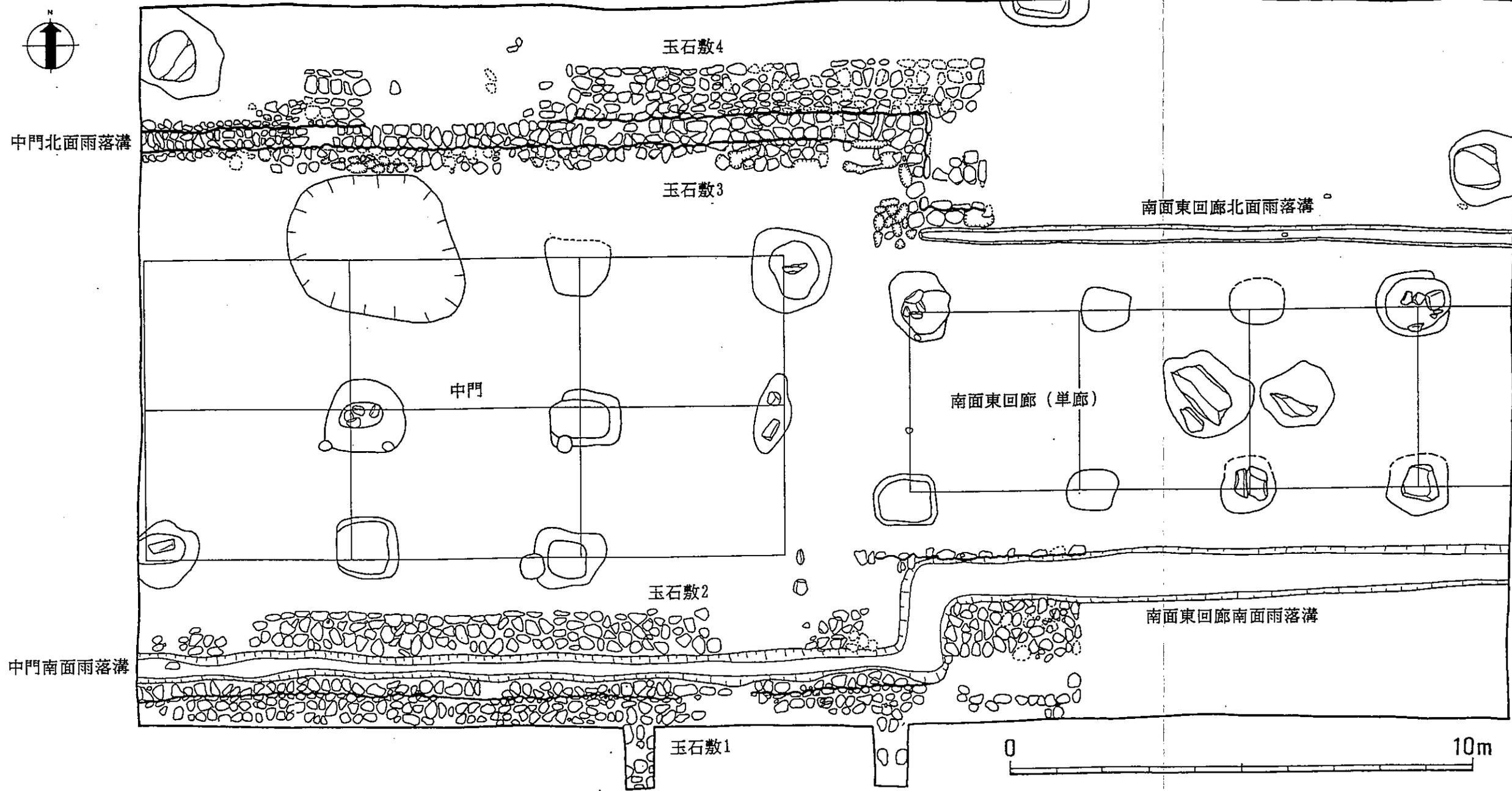


図-2 本薬師寺中門跡発掘調査遺構図

### 3. 今回の調査で判明した遺跡の概要

#### A. 遺構

##### ① 中門

- ・中門の南北両面に各2条の玉石敷（玉石敷1～4）と、これらの玉石敷にはさまれて矩形に折れ曲がる石組の雨落溝などを検出した。それぞれの平面規模は図-3のとおりである。
- ・南面内側の玉石敷（玉石敷2）の北縁は一直線に揃っている（図-2）。したがって、この位置に中門基壇の南端部を想定することができる。この場合、玉石敷2と玉石敷3は基壇の外周をめぐる犬走りとなり、基壇の東西長は56尺、南北長は31尺に復原される。
- ・南北両面ともに階段の痕跡がないため、基壇高の正確な復原は不可能である。しかし人間の登降を考慮すれば、それほど高くはなかったであろう。
- ・雨落溝の幅は南面が北面の1.5倍の規模に計画されている。これは、南から北に向かって下がる地形の影響を受けたものと理解できる。
- ・南面雨落溝は、北半部の底石を抜き取って、さらに深い素掘溝を掘削した時期がある。この素掘溝は南面東回廊南雨落溝にも及んでおり、おそらく排水に苦慮した末の仕事であろう。
- ・玉石敷は中門外周部にのみ存在し、回廊基壇の周囲にはない。したがって、中軸線を強調して中門のみ南北両面を石敷によって荘厳する意匠が採られたものと考えてよい。
- ・検出した礎石据付痕跡、礎石抜き取痕跡をもとに中門の復原平面プランの一案を示せば、図-2、3のように桁行3間（総長47尺、柱間寸法は中央間が17尺(5m)、両脇間が15尺(4.43m)）、梁間2間（総長22尺、柱間寸法11尺(3.25m)等間）となる。この場合、側柱心から雨落溝までの距離は平側（正面・背面）、妻側（側面）ともに約7.5尺と等しくなる。

##### ②南面東回廊

- ・中門東方に連続する南面回廊を3間分検出した。単廊で柱間寸法は桁行、梁間ともに12.5尺（約3.7m）である。8箇所検出した柱位置のうち、2箇所では礎石が当初の位置に遺存し、3箇所では礎石据付痕跡と礎石抜き取痕跡とをともに検出、それ以外の箇所では礎石抜き取痕跡のみを検出した。金堂、東塔の礎石には柱座や地覆座の造り出しがあるが、回廊の礎石にはない。
- ・図-3に示すように、中門を含めた南面回廊は全長を12.5尺等間の奇数間に割り付けたものとみられる。これは、平城薬師寺における当初の計画手法と同一である（図-5）。
- ・本薬師寺では平城薬師寺に比べて中門がやや南に位置することが判明した。金堂心と東西両塔心との南北距離は100尺で平城薬師寺と一致するが、東西両塔心と中門および南面回廊心との南北距離は約23m強（約79尺）あって、平城薬師寺の72.5尺よりやや長い（図-5）。両者の差は回廊の梁間柱間寸法のほぼ1/2に一致するから、本薬師寺では東西両塔心と南面回廊北側柱通心との距離を72.5尺に計画したものと見られる。本薬師寺では両塔心が南面および東面・西面回廊の内側の柱心からそれぞれ72.5尺の等距離に計画されていた可能性が高い。
- ・回廊の雨落溝も、中門の雨落溝と同様に北よりも南の幅が広い。ただし南雨落溝では、中門東妻との取り付け部から東へ2間目の回廊柱筋までを石組護岸、それより東方を素掘溝として検出した。溝内からは、回廊のものと思われる壁土の一部が出土した。
- ・回廊の雨落溝は、後に底ざらえをして深くしている。

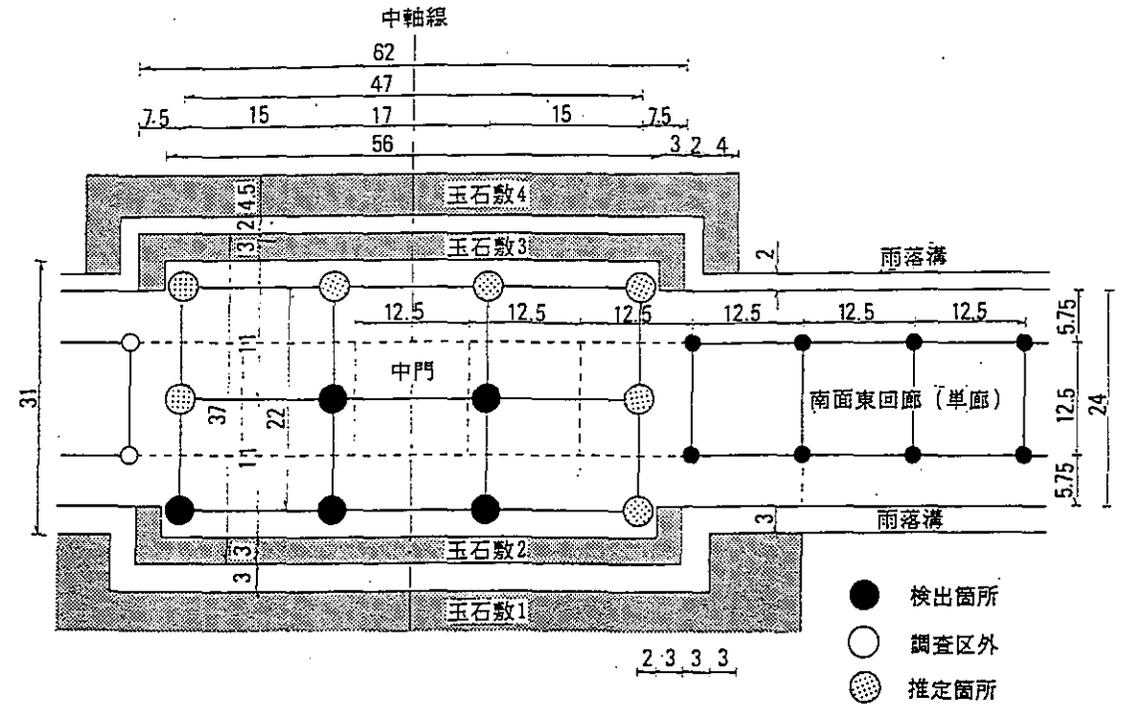


図-3 本薬師寺中門の復原寸法（単位；尺(1尺=0.295m)）

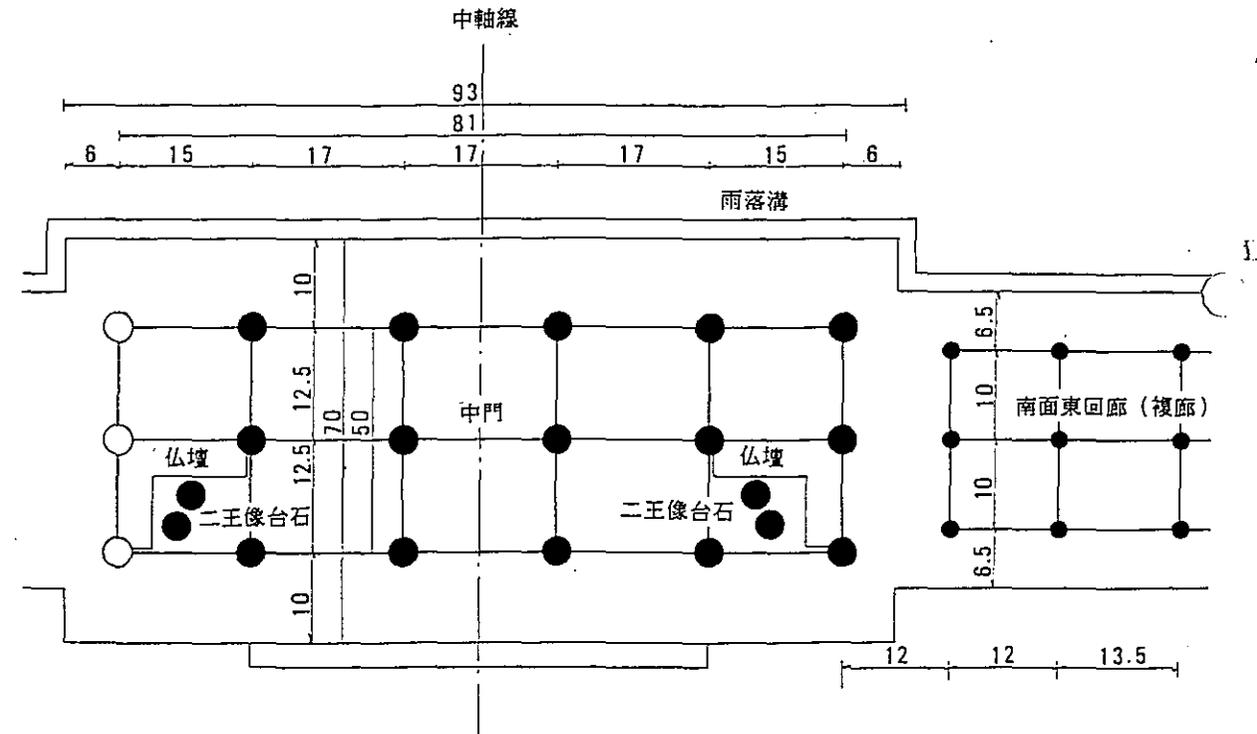


図-4 平城薬師寺中門の復原寸法（単位；尺(1尺=0.295m)）

## B. 遺物

土器の出土量は僅少であるが、瓦の出土量はきわめて多い。中門と南面東回廊の南北両面で多く出土し、とりわけ中門の北雨落溝の北に沿って瓦が帯状に堆積する。約120点出土した軒瓦のうちの多くは本薬師寺の創建瓦であるが、少量ながら奈良時代のものを含む。

## 4. まとめ

今回の調査の結果、本薬師寺中門の遺構はきわめて遺存状況が良好であることを確認した。そして、門基壇の外周を石敷の犬走りや石組雨落溝、そしてさらに化粧石敷などがめぐり、仏門としての偉容をいやがうえにも高める意匠であったことが明らかとなった。このような基壇外周意匠の格式の高さを考慮すれば、重層門であった可能性も十分に考えられる。この問題は、いまひとつの仏門である南大門の意匠・構造とも深く関わっており、今後の調査を待って、さらに詳細な検討が必要となろう。

最後に平城薬師寺との関係について付言しておく。薬師寺の伽藍配置に関しては、平城遷都に際して主要伽藍が移築されたのか否かという問題が長く議論の対象となってきた。今回の調査では残念ながらこの問題を解決する決定的な資料を得たとはいえない。しかし、あえていえば次のような点から、平城遷都に伴う中門の移築は可能性として低いようだ。

- ・本薬師寺中門と平城薬師寺中門は規模の上で大きく相違する(図-3、4)。特に平城薬師寺中門の平側軒の出が10尺以上に復原できるのに対し、本薬師寺中門では約8尺しかない。軒の出の変更は部材等の細部にわたって不都合をきたす。
- ・奈良時代の瓦が出土しているため、平城遷都後にも瓦の差し替え等の維持管理の行われていたことが推定できる。
- ・本薬師寺の単廊と平城薬師寺で完成した複廊とでは寸法が大きく異なるため、全面的な新築工事となった可能性が高い。

以上は中門に関する所見であり、金堂・塔などを含めた移築非移築論の決着は今後の調査にゆだねることとなった。なお、調査区内には中門とほぼ中軸線を揃えて藤原京の条坊遺構(西三坊坊間路)の存在が想定されたが、現段階では未検出である。この点についても、今後の調査の進展に期待したい。

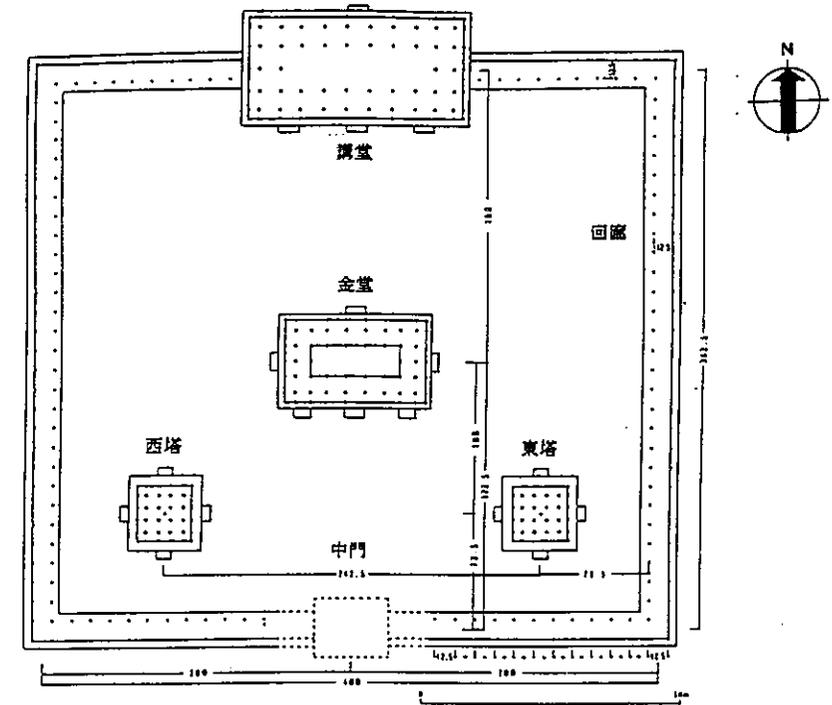


図-5 平城薬師寺の当初計画(単廊)(単位;尺(1尺=0.295m))

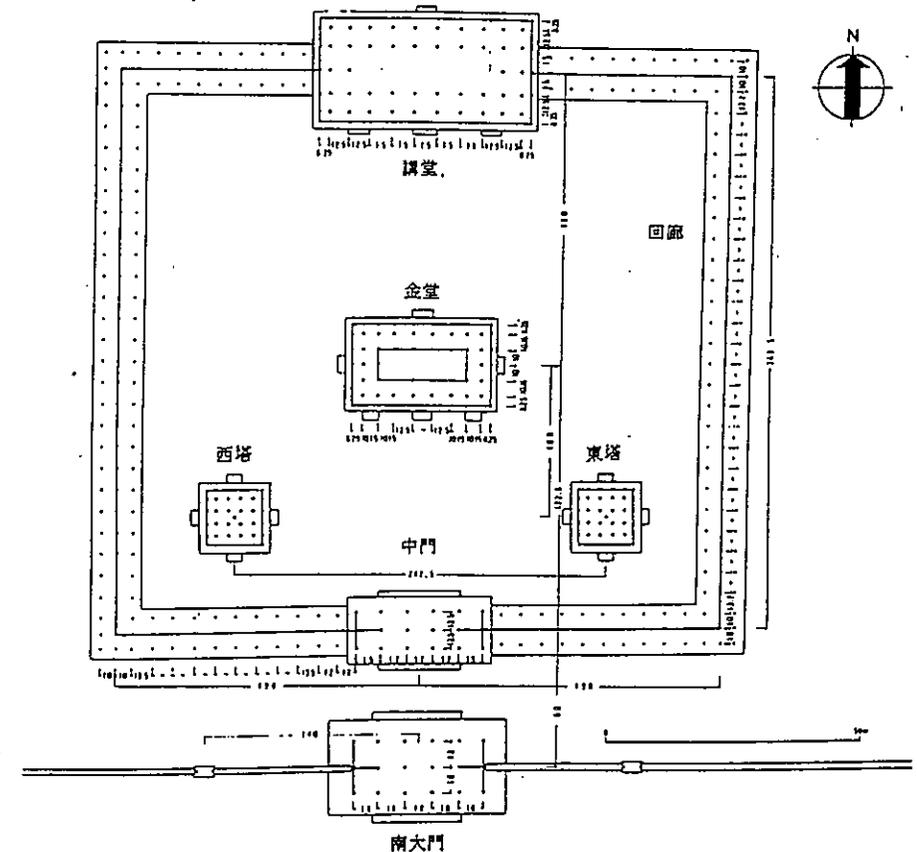


図-6 平城薬師寺で実際に施工された伽藍配置(複廊)(単位;尺(1尺=0.295m))